

附属屋（車庫）

旧朝倉家住宅には大正8年の建設当初から車庫がありました。市街地化が急速に進む東京の周縁部[しゅうえんぶ]で、自動車は必須の道具となっていきました。屋根を支える洋風の構造、コンクリートの土間、両妻[りょうづま]の内側の波形[なみがた]鉄板など、普及し始めた頃の車庫の仕様を良く示しています。後に管理棟として改造されましたが、詳細な痕跡調査によって創建当初の姿に復原しました。

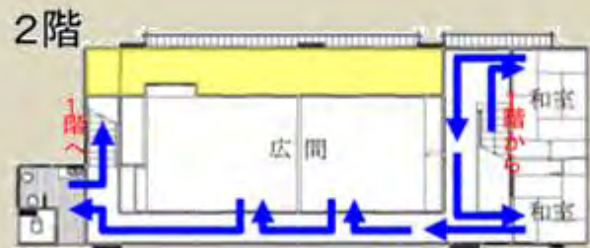


主屋案内及び見学順路

主屋は、主人が使用していた部屋、家族が使用した部屋、使用人が使用した部屋及び広間に区分することができます。

玄関左手に12畳半の応接間があり、右手は洋間となっています。2階には格式の高い15畳と12畳半の広間があります。また、廊下からは庭園を俯瞰[ふかん]することができます。

1階に降りると杉板を多く用いた杉の間（三間）、茶室、土蔵があり、洋間に改装された第1会議室は、かつては仏間・中の間（居間）・寝間の3部屋からなっていました。



※ 部分は観覧できません。

